

がん患者・家族、県民のための公開講座

「家族ががんに・・・その時どうする？」 ～乳がんの妻と共に闘った夫からのメッセージ～

H28年2月27日(土)

14:00～16:00

受付開始13:30～

入場無料 申込必要
定員200名程度
定員になり次第締切

県立図書館
メディア・アート・ホール
和歌山市西高松1丁目7-38
TEL 073-436-9500



『ママが生きた証』の著者
乳がん患者家族
放送作家

小松 武幸氏

日本ではがんになったことを職場の仲間や友人に告げると、皆、一様に苦しい表情を浮かべ、表向きは「大丈夫だよ」と言いながら、内心は「死ぬのではないか？」と思う方が多いようです。

一方、がん先進国アメリカは笑顔で「よく、話してくれたね！」と言ってハグを求め、手を握りながら真剣に将来を考えてくれるそうです。

「がん＝死」と考えがちな日本。「がん＝新たな自分の始まり」と捉えるアメリカ。今後、日本人の2人に1人ががんになると言われる今だからこそ、根本からがんに対する考えを見直す必要性があると感じています。

とりわけ、患者とその家族の関係において・・・。

もし、愛する人ががんになった時、家族はどんなサポートをすべきなのか？

愛する人とどうやって一緒に病気と闘っていけば良いのか？

29歳妊娠5か月の時、突然、余命1年の乳がんを宣告された私の妻と、それを支えた私のエピソードを基に、お話できればと思います。

【お申し込み・お問い合わせ】 和歌山県立医科大学附属病院 地域連携室

TEL 073-441-0778 FAX 073-441-0862

裏面の申込み用紙にてお申し込みください

駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください

がん患者・家族・県民のための公開講座
FAX 073-441-0862

和歌山医大病院 地域連携室あて

定員になり次第締切

お名前	電話番号	関係機関の場合 ご所属・職名

会場案内

